

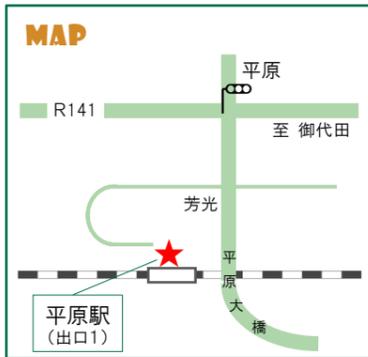
こ み ち

# 本の小途

Vol. 10  
2021.秋号



特集  
駅を楽しむ



=表紙写真=平原駅に入ってくるしなの鉄道。(2021年9月撮影) 駅に行く道が細いので、車で訪れる際は注意が必要。

小諸駅から一人暮らしの母が待つ千曲駅までは絶好の読書旅だ。ある夜、千曲駅に定刻通りにやってきた電車は、いつもとは違う銀色に赤のラインがキラリとほしかった。新型車両だった。ホームへすべりこんできたその電車は、停車したもののドアが開く気配がない。乗車できずにオタオタする私を見かねたのか、高校生が車両の中からドアを開けてくれた。車内アナウンスではドアの開け方の案内が流れ、みると緑と赤の大きなボタンがドアの脇にあり、小海線の車両のそれと同じであった。その日はばかりは読書どころではなく、かの高校生に感謝しつつ飽きずに車内を眺めた。

今も休日の度に通う千曲への読書旅。この旅があと一年、あと一日と永く続くことを願いながら。

## ～本途人舎よりお知らせ～

### はまりました！ リレー 小諸図書館つなぐLIB

つなぐ LIB とは？

地域の情報を集積し発信することも図書館の役割のひとつです。「つなぐ LIB」は、皆さんが持っている地域の情報やお知らせを図書館と参加される皆さんと一緒に展示を行う企画です。参加にジャンルや個人・団体は問いません。

7.8月

小諸のフラワーガーデンにようこそ！  
チョコと花のまちづくり



市内にあるバタフライガーデンをまとめた自作のパンフレットは、多くの方が手に取っていかれました

8月

ラトビア日本友好100周年  
Baldone Art School 子どもたちの  
絵画展 in 市立小諸図書館



遠く離れた子ども達の絵の他に日常で使われている道具も展示されました

9月

『むかしの話～小諸の民話』  
手作り紙芝居展 野岸小学校6年1組



児童の皆さんがひとつひとつ丁寧に展示してくれました

10月

参加される方を募集しています。  
ぜひ情報発信の場として  
図書館を活用して下さい！

「小山敬三が生まれた町、小諸」

毎月開催している「ほんのひととき」で紹介された本をピックアップ！

### リレー版 ほんのひととき



『お探しの図書室まで』  
青山美智子 著  
ポプラ社 (2020. 11)

選んだ人  
ペンネーム グリーン さん

町の図書室を訪れた、心に悩みを抱えた人たちの心を、ちょっと不愛想だけど聞き上手な司書さんが本で後押しします。登場する本は実際にある本なのが、より興味深いです。

### 好きな本を語りた方、聞きたい方大募集！

一緒に「ほんのひととき」を過ごしませんか？

→ 毎月 第三 日曜日 午後2時～4時  
会場：市立小諸図書館 ボランティアルーム

### 今月の元標 (第10合目)



北国街道添いの芝生田東端を左手に折れてしばらく坂を下ると、「あ、ここだ」と思わず叫んでしまった。

『カラー版 小さい駅の小さな旅案内』 P.150  
(夏目雄平 / 洋泉社 / 2007)

長野県生まれの著者が、実際に訪ね歩いた日本各地の鉄道旅を紹介している。上は芝生田の棚田を訪れた時の様子。本書を読んでいると普段見慣れている風景もどこか遠い地を感じる。

「元標」とは浅間山を登る人のための道しるべのことをいい、小諸八幡神社を起点としています。

### 編集後記

最近日は没の時間で秋を感じるようになりました。田園の中で電車を待っていた時、太陽が北アルプスの向こうに沈む様が印象的でした。そういえば2年前の表紙も夕暮れの写真でした。小諸の美しい夕暮れはまだまだありそうです。(Y&K)

## 『鉄道唱歌と地図でたどるあの駅』の街

(今尾恵介 朝日新聞出版 二〇一六)

♪汽笛一声新橋をくゞで始まる鉄道唱歌(地理教育鉄道唱歌)ですが、東海道だけでなく、各地の鉄道の歌詞もあるのです。小諸も信越・北陸編に登場します。



## 『もじもじもじ鉄』

### 鉄道の書体とデザインはぼんぷ

(石川祐基 三才ブックス 二〇一九)

“もじ鉄”とは、駅の看板、車両の表記など、鉄道の文字の書体を楽しむ趣味のこと。しなの鉄道軽井沢駅には旧・国鉄時代の書体の駅名標があるそうです。



## 『信州観光パノラマ絵図』

(信濃毎日新聞社出版部編 信濃毎日新聞社 二〇一三)

大正昭和初期に描かれた観光絵図を集めた本。小諸付近の絵図は昭和十一年作で、製糸場や役場など駅周辺の主要な建物の位置が描かれ興味深いです。



本と人を紹介するコーナー

# ほんひと

昨年、小諸駅にふらりと寄りたくなるカフェが出来ました。カフェの名前は「小諸駅のまど」。カフェを営む金山裕美さんにお話を伺ってきました。

Q お店が出来た経緯について教えてください。

金山さん(以下K)最初は父(哲也さん)の実家である古民家の修理のために東京の町田市から小諸に通って、二拠点で生活をしていました。開業は「おしゃれ田舎プロジェクト」が主催するセミナーに参加したことがきっかけでした。セミナーで紹介された空き店舗の中にみどりの窓口だった場所を見つけ「ここだ!」と決めたいです。準備をする中で、人が集える場所、学生と社会人が交わる場所になればと電源カフェにしました。

Q 確かに元みどりの窓口というのはなかなかない立地ですね。

K はい、駅という立地を活かしました。スマートフォンを片手に長距離を移動しようとする目的の駅に

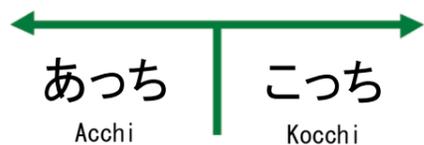
## 『駅スタンプの世界』

(坪内政美 天夢人 二〇二一)

駅スタンプの魅力にはまった著者が全国のスタンプコレクションを紹介。スタンプの楽しみ方もレクチャーしてくれる一冊です。ちなみに、小諸駅にもスタンプがあるそうですよ。



# 駅を楽しむ



鉄道の旅の楽しみ方は色々ありますが、“駅”にスポットを当てた本を中心に紹介します。

## 『駅弁読本』

(上杉剛嗣 樫出版社 二〇一一)

「駅弁」の魅力を、歴史、中身、架け紙から駅弁の科学(?!?)まで、様々な角度から紹介している本。ノスタルジックなデザインの表紙が、いい味を出しています。

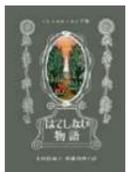


着いた頃には充電が少ないことってありますよね。そういう時に気軽に充電をしながら一息つける場所が欲しいなと思いませんか? 小諸の魅力をj知ることが出来ても嬉しいんです。お客様にも小諸で今、どんなコトが起きているのか、少しでも知って頂くきっかけになったらと思っています。

Q 今後の展開について伺ってもいいですか?

K まだしばらくはコロナ禍で人を集めたイベントが出来ないことを視野にいれながら少しずつ考えています。これまであまり駅にいらしていなかった方にとっても、駅に来るきっかけを作っていきたいです。Q お話を聞くだけでわくわくしますね。では最後に思い出の本の紹介をお願いします。

K 小さい頃は体が弱かったこともあって本は居場所のひとつでした。『はてしない物語』(ミヒヤエル・エンデル作)はその頃出会った本のひとつです。本の世界と現実を行き来できる楽しさがあると思います。



上田真而子、佐藤真理子/訳 岩波書店

— ありがとうございます。とても気さくでたくさんの本や小諸への思いをおはなしていただきました。ぜひそのお人柄に触れてみてください。



## 小諸駅のまど

かなやま ひろみ 金山裕美さん、てつや 金山哲也さん

小諸駅のまど 定休日: 火曜日

↓ ホームページ



明るい店内は、居心地がよく、ゆったりと過ごせる。

## メンバーおすすめの本

紹介人 大池 和美

### 『線は、僕を描く』

とがみ ひろまさ 砥上 裕将/著 講談社



水墨画は、墨で書かれた絵の掛け軸で、年配の方が描いたり楽しむもの。私の興味の対象では無いな〜と思っていた——この本を読むまでは……。

主人公の大学生青山霜介は、両親を亡くした深い悲しみで心を閉ざし、毎日暮らしていた。そんな時、バイト先で思いがけず水墨画と出会ってしまう。絵を描いたことも無かった霜介は、なぜか水墨画の巨匠、篠山湖山に気に入られ、あれよあれよという間に内弟子になった。水墨画の奥深さに魅了されていく中で、硯に墨をすり、筆を持って画仙紙と向き合う霜介の閉ざされた心は、少しずつ回復していく。

静けさと墨の匂い、水墨画の迫力が読む側にも伝わってくる。霜介を取りまく登場人物たちもキャラが立っていて魅力的だ。師匠の湖山先生曰く、「数々の失敗を大胆に繰り返すこと、そして学ぶこと。学ぶことを楽しむこと。失敗からしか学べないことは多いからね。」

この言葉が沁みる。どこかで水墨画展があったら見に行ってみよう。

## 小諸駅&周辺のミニ情報

信越線小諸駅は、直江津線(現信越線)上田-軽井沢間の開通に伴い、明治21年(1888)開業しました。線路と駅舎は小諸城三の丸を縦断する形で設けられました。現在の駅舎は昭和25年(1950)に建てられたものです。



### 煉瓦造りの油庫

小諸駅のホームの脇に残る、明治時代に作られた煉瓦造りの倉庫。油庫には、客車の室内灯(ランプ)などに使う油類が保管されていました。壁面の煉瓦は、イギリス積みという手法が使われていて、旧信越本線の長野県内区間で唯一の建物となっています。



### 蒸気機関車(SL)

昭和17年(1942)5月から昭和47年(1972)に小海線で働いていたC56機関車は、昭和48年(1973)に小諸市に貸与されました。現在も懐古園入口付近(以前の遊園地所在地)に設置されています。

<参考資料> 『広報こもろ』(1973年3月号)、『小諸ふるさと遺産集』(小諸市教育委員会 2021)